

遊戯に對する理論の摘要

土 川 五 郎

一、音樂の伴ふ遊戯

未開の民が生れぬそもその始めから今の文化に達する迄の經路と、人が胎内に宿つて母體の内に發育する經路から生れて青期迄に進んで行く經路とは全く同じである。

子供は生れてから育つ道程は原始的で年を経るに従つて原始的が薄らぎ文化的に進んでゆく、子供に表はれる遊戯は未開の民の生活者のまゝを繰返して居る。(反復説)

未開の民には何れの民族にも歌と踊が残つてゐて、これが今日の音樂となり舞踊となつて來た。

子供は「歌いたがり」「踊りたがる」これは本能的に人間の持つてゐる力である。

此の本能的である所の力を善い方に導く事が教育である。争鬭本能を競技に導くに同じことである。如何に導くべきか。

1、生理的に心理的に審美的に即ち合理的に組立てられたもの。

2、幼兒時代の教育は人の一生を通じての基調となる就中身體に最も注意を拂はねばならぬ、幼兒の身體は未完成である、基本筋肉を動かすべき時である。脚を強くすべき時である、心臓より血管が大人に比して太いことは自然が幼兒を

發育せしめんための用意である。神經中極と末梢との調節が未完なるも然り、此の如き幼兒の身體には種々なる（大人と異なりて）注意すべき點が多い。これを合理的に其の發達を助長すべき各種の運動を必要とする。

3、幼兒は感情生活の時代である（理知の時代ではない）。これに感情教育を施すことは最も大切である。

音楽により歌によりて其の感じを體現して一層其効果を大ならしむる大切なよい時である。快感……生理的影響。趣味の發生。自發的運動……音からリズムから、運動感覺から快感を起し趣味を生ず。音と運動、リズムの説明、リズム運動の効果敏捷、正確、從順、疲勞恢復、能率増進。

4、重心……遊戯の表現は重心を捉へたもの其の曲も其の歌も然り、子供の表情と大人の表情、

子供の表情を取りて美化したるも此處に身體美を作る。

其のよき音楽よきリズムよき運動によつて心身を其の中に浸したる時、何とも云ひ知れぬ心地よき陶然たる氣持ち、其時無我の境に入り社會と離れ人を超越して神境に入り雜念を離れて淨化作用が行はる。しかも身體の發育を助長して行く、茲に遊戯の價値がある。

○行進遊戯リズムと音によつて感じを表現す。

○唱歌遊戯、歌とリズムと音により歌の感じを表現す。

此の二つを一括して音楽の伴ふ遊戯として他の遊戯と區別するのが便利である。

◎音楽の伴ふ遊戯 幼稚園小學校に課する教育的遊戯は體育を離れては存在せぬ、感情教育が之に伴ふのである、之を顛倒したり感情教育に偏しては要目に入れられた精神に戻るばかりでな

く所謂藝術かぶれの誇りは免れぬ。

其の効果は身體及精神に教育的影響を及ぼさねばならぬ。

◎舞踊と遊戯との別　舞踊に就て正確なる意義と云ふ専門的の論議はここには述べぬ。只普通に常識的に稱する舞踊と云ふ意味に於て云へば、舞踊はステージのものである。人に見て貰ふものである、鑑賞に供するものである。これを行ふ人の如何は問はんでもよい。これが墮落すると世人に迎合して野卑なものになる。

舞踊の極致は肉體美を完全に表はす迄に（體操でも遊戯でも同じことである）鍛練して行くものである。併し之れを行ふ人の人格、感情、生理等の方面に深き考慮はないでも別に咎めぬ只々其の藝術がうまく出来ればよい。舞踊の振付者は其の影響が非教育的であつても責任はない。人の子を害ねても人の心をとろかしても悪

い傾向に導いても何等責任はない。

◎遊戯　幼稚園小學校に課する遊戯はステージのものではない。見せるべく出来て居るのではない。其の見る人がつまらぬと感じても兒童自身の樂しく面白く其の結果が心身によい影響を與へればよい。即ち教育的効果の收得がなければならぬ。

舞踊は餘興的に使用する場合が多く又使用してもよい。遊戯は決して餘興的に使用すべきでない、純粹な神聖な教科である、其の本質が餘興に供するものでない、幼兒にとつて眞面目なものである。

振付者は其の作品に對して責任を負ふべきである、振付する者は其の人格と其の學力と其の研究とに於て大いに考へねばならぬ、其の人格が其の振りの線に表はれ、其の曲、其の歌の選擇が其人の品性と學力を窺知する事が出来、や

がて兒童にそれがそのまゝ移り行く事を思はねばなぬ。

◎撰擇する先生、教員保母は他人の振付したるものを選択に當り其人相應なものを撰むのである。換言すれば其の人の人格、品性、趣味の傾向、學力が其の撰まれたものに依て知らるゝのである。

高尚な人格趣味ある人は高尚なものを撰み野卑な傾向を持てる人は其れ相當のものを撰む。遊戯は體育を離れては存在せぬ、感情陶汰と相俟つて進むべきである、音楽によりて動くもの美を以て進むもの之皆藝術には相違ない。併し其の立場は藝術を兒童に與へるのが全體の目的ではなぬ。

◎藝術を教育に利用したのである、詳言すれば唱歌の効果を一層確實に體驗せしめつつ教育に利用したのである。

其の利用する目的は

純ならしめんため、純真な幼兒を一層純なら

しめんため。

◎高からしめんため、趣味を高上せしめんため
◎美はしくせしめんため、身體の美を更に美にし感情を一層美はしくせしめんため。

右三つの要件が目標で藝術を利用することを忘れてはならぬ。

三つの條件に照して之に適したものを撰べば、不純な歌詞（てるてる坊主の如き）、低級な音楽（民謡俗謡）、振の野卑なもの（手あどり式寄席藝術の如き）を撰ぶことの誤まれることの明かである。

又其の表現が幼兒兒童に不適當（身體的に精神的に）のものではならぬ。

遊戯は自然を尙ぶ、舞踊でも遊戯でも自然を尙ぶことは同一である。徒らに加工した人工的多

く加へたもの程不適當なものはない。

彼のダンスの昔の手先の如き加工せずとも人の手は自然のままて立派に美は存在する。

○外國のものを凡てそのまま受入れる國は我國より外にはない、明治維新後舶來崇拜の傾向が大なる勢で風靡した結果、今でも外語の題目にあつがれるもの少なくない。日本は進んで來た、模倣時代は去つた、國民性のある日本の創作物が續出すべきである、勿論よい所は外國より取るべきでこれを我國にアレンヂせねばならぬ。

○日本在來の踊りは藝術として世界に誇るべきである。併し教育に利用する事は一考せねばならぬ、ことに音樂の基礎がちがひ、服裝殊に袖によるものであり、男性女性の表出に腰の据へ方がちがひ今の體育自然の人間の姿勢と矛盾がある。これ等を研究することがまだ不十分ではないか、ことに幼少より練習に練習を重ねて所謂

精練された振りをすぐに取入れることは却つて藝術を害するものである。

二、幼兒の競技

相手のものと相争ふことは嬰兒の頃よりあると云はれて居る、幼兒時代も無論競争心は十分に表はれて居る。併し競技の生活として完全な形式を備へて表はれて來たのは尋常三年時代からである幼兒は自分が負けてもさして苦痛とも感ぜず勝つても左程嬉しくはない。唯環境から影響されて或は喜び或は沈む位の程度に過ぎない。然らば幼兒に競技を課することは無用であるが、之れで與へずして捨てておくべきか。

嬰兒時代より本能的に持つて居るものを善導して運動精神 (Spirit of Play) を培養し行くことは最も大切なことではあるまいか、競技の精神、筋覺の統制、注意の集中、言論の明瞭なる理解と判

斷、感官—中樞—運動神經—筋肉、此の間の交通

の敏捷、自發的運動等順次に養はれ行くときは心身兩方面の發育上多大なる効果あるべし。幼兒は勝つても左程嬉しくもない、只環境によつて少しく沈む位のものである。此の如き理由によつて競技は課さぬとか、到底だめだ張合がないと考へて競技を課さぬ事が至當な事であらうか。前に述べた如く競争心は嬰兒の時からありとすれば、それを如何に發達せしむべきかを考へねばならぬ。運動精神(Spirit of play)は如何にして培養して行くべきかを考へねばならぬ、そして競技の精神、筋覺の統制、注意の集中、感覺器官を正しく練磨、言語の明瞭なる理解と判斷、自發活動等の順次に養はれて行く様に幼兒の心理に適合したる競技を課して行くことが大切である。ここに最も注意すべき肝要なことは幼兒の競技には其の子供一人が行ふことになつて興味の十分にあるものを考へて

行くことである。

多數が集まつてなすことから興味の起る事は幼兒に取つてはあまり價値のないものである。幼兒に課する競技は如何なるものを選ぶべきか。

1、幼兒一人でなしても面白い即ち幼兒の興味を感ずるもの、換言すれば多數によつてなすことによつて興味の起るものは幼兒のものではな
5。

2、大人が考へて面白からんと思ふものは割合に幼兒には興味の起らぬものが多い。これ幼兒の心は大人とは異なる點から生ずる誤まりである
3、極めて簡單なものでなければならぬ。

次に記せる注意及び例としての競技はライトン
ン氏 (Wrightson) の著書 (Games for children's Development) 中にある最有益と信じたる部分を抄譯したるもの。

競技を實際に施す注意

1、幼児に課する競技は幼児をして運動精神の中に全く没頭せしむる様に仕向くことが肝要である。

2、競技は完全に簡単であることが基礎的要件である。

3、其の方法は競技それ自身よりも大切であることを忘れてはならぬ。

簡単なゲームでも複雑な方法によつて教へられた時は幼児の頭を混乱せしめ却つて興味を失はしむ。

4、教師の最も心掛くべきことは幼児は一時に一事である。同時に二つ以上の事を與ふるは禁物である。

5、人格ある教師は頭のよい幼児とよくない幼児と兩方をよく教ふる。

6、教師は辛抱強く、氣嫌よく、樂天的であらねばならぬ。

思ふ様な結果に幼児を導き得ない時は自分の心に激勵の一語を常に用意すべきである。

7、教師は導くに當り極めて綿密なる用意を要する而して鋭敏なる力を以て觀察と注意をせねばならぬ。

8、教師の心は子供の精神に反影す。

9、教育は一つの心から次の心へと進み行く。

競技の例

豆囊競技 豆囊投げ、三色投げ、豆囊リレー、輪ぬけ、豆囊送り。

一列積木運び、三色競争、三色積木、積木倒し、積木籠入れ競争、積木毬投げ競争。

繩飛び。

ボール投。

その他、室内にある物を保姆の命令でとつて來る競争、カヘル跳び、片足跳び等。

方法は省略。